

高齢者肺癌に対するサポート介入を考える

科目責任者：仁 保 誠 治（内科学（呼吸器・アレルギー））

I. 前 文

1980年以降，悪性腫瘍は日本人の死亡原因の第一位であり，年々増加している。肺癌は臓器別の悪性腫瘍による死亡原因の第一位である。高齢化社会となり，肺癌患者の平均年齢は70歳を超えている。高齢者肺癌患者に対する薬物治療，必要な医療サポートの現状，今後必要とされるものについて議論する。

II. 受入可能人数

若干名

III. 担当教員

教 授 仁 保 誠 治 内科学（呼吸器・アレルギー）

病院講師 新 井 良 内科学（呼吸器・アレルギー）

病院講師 曾 田 紗 世 内科学（呼吸器・アレルギー）

IV. 学習内容

高齢者に対する複数の視点からの機能評価を推論後，実習にて機能評価を行い，高齢者肺癌患者に必要なサポートを考察する。その上で，適切な薬物治療についても議論する。

1回の講義時間，実習時間は約1時間。受講者の都合に合わせて行う。

V. 学修の到達目標

高齢者肺癌患者に必要な医療サポートには，現在どのようなものがあるか，今後何が必要とされるか知ることができる。

VI. 成績評価の方法・基準

自主学習内容に関するレポート提出で評価する。

VII. 使用する教材・資料など

高齢者機能評価の質問票を教材にする。

日本老年医学会ホームページ（高齢者診療におけるお役立ちツール）：<https://jpn-geriat-soc.or.jp/tool/index.html>

VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：内科学（呼吸器・アレルギー）講座研究室（臨床医学棟7階）月～金曜日9：30～17：00

IX. 求められる事前学習，事後学習及びそれに必要な時間

事前学習として日本老年医学会ホームページを参照し，高齢者の機能評価方法をまとめておくこと（30分程度）

X. コアカリ記号・番号

「GE-03-05」老年期

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

レポート返却時にコメントをつけて返却

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	○
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	